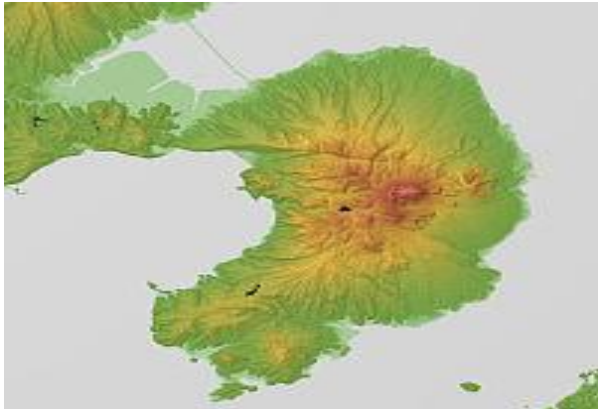


私のふるさと



太田 和則

長崎市の南東約 60km に位置し、島原半島の南にあたる一帯が私の育った故郷、南島原市である。



人間の胃袋に似ている。この市は 2006 年に 8 町を統合し生まれた。半島の中央部に雲仙を配し、ここからは遠く熊本の阿蘇山、稀ではあるが鹿児島島の桜島をも見ることができる。

周囲は有明海と橘湾に囲まれ、有明海を隔てて天草の島々を見ることができる。この街には史跡で島原の乱の舞台になった原城がある。1637 年にキリシタン一揆が起き、半島のほとんどの民が犠牲となった。その数 30,000 人と言われ当時としては凄惨な数字である。現在の南島原市の総人口が 44,700 人と比べても驚く数字だ。

名産としては、数年前に三輪素麺の生産地偽称と騒がれた島原素麺がある。おかげで有名になり、知名度を上げるのに役立った。皮肉である。

いつまでも残る記憶は、小学生の頃のこと。自宅の目の前が 10 秒で白い砂浜、学校から帰るととりあえず海に飛び込んだのを思い出す。いつも真っ黒。有明海は当時貧しかった食卓をも補ってくれ、遊びも単なる海水浴ではなく、魚を突き、サザエ、ハマグリなどあらゆる獲物を恵んでくれた。

今思えば当時の地域住民を助けた一番の功労者であろう。山もすぐそば。ヤマモモやグミやアケビ採りと、よく遊び飛び回ったな～。そんな故郷だった。

大した紹介もできなかったが、島原半島ぐると散策すれば結構いろいろと名所がある。一部紹介。



島原市の島原城



雲仙の平成新山（初めて火砕流を知る）



加津佐海水浴場（砂がとてもきめ細やか）



島原市街地を流れる湧き水（鯉の泳ぐ、水路の水は当時は飲めた）

そんな思い出のふるさとですが、2016 年秋に全てをたたみ 100%の奈良市住民となりました。

“これからも宜しく願いいたします。”